

2015年12月20日から2016年5月6日までにご寄付頂いた皆様方のお名前です。ありがとうございました。

- 伊地知 修 様
- 福川 勉功 様
- 福川 みずほ 様
- 鮫島 信一 様
- 有限会社saintarrow 様
- 河野 嘉文 様
- 水沼 正一 様
- 栄 心咲 様
- 河野 保夫 様
- 上野 凌太 様
- 岡村 健 様
- 奥田 由美子 様
- 株式会社 丸徳水産 様
- 東 久雄 様
- 飯田 富美子 様
- 笹森 陽子 様
- 麦生田 もも 様
- 田畑 広和 様
- 伊佐整形外科 様
- 黒崎 沙安 様
- 医療法人仁和会理事長 山田和彦 様
- 中野 緩奈 様
- 石田 勝治 様
- 大竹 憲司 様
- 黒江 栄史 様
- 溝口 幸泰 様
- アイ・エイト行政書士事務所 石川篤子 様
- 医療法人藤崎クリニック 藤崎知文 様
- 清松 満 様
- 若松 隆男 様
- 大橋 十也 様
- 白髪 宏司 様
- 和田 由美 様
- 岩松 洋一 様
- 徳之島徳洲会病院 様
- 国分酒造協業組合 様
- 鹿児島教区仏教婦人会連盟 様
- 鹿児島大学小児科医局 様
- 鹿児島南ロータリークラブ 様
- 赤川 慎子 様
- 福原 正弘 様



認定NPO法人発足に伴う変更事項

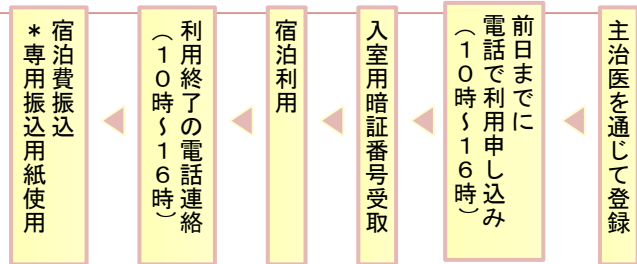
一般寄付・賛助会費は税控除の対象となりますので、領収書をお送り致します。

■一般寄付	本法人の活動意義をご理解頂き、額の多寡は関係なくご寄附を賜りますようお願い致します。現金収受の方法は、事務局へお問い合わせ下さい。
■個人賛助会員：年会費.....12,000円	
■法人賛助会員：年会費.....120,000円	
■募金箱	募金箱をお置きいただける店舗・企業・他を募集しております。ご賛同いただける方は、事務局までご連絡下さい。 本法人の活動意義をご理解頂き、活動を支援いただける個人又は企業の入会をお願いしております。 入会申込書をホームページからダウンロードして事務局へお送り下さい。

「鹿児島ファミリーハウス」のご利用方法

鹿児島市内の病院に通院、入院する患児とご家族のための宿泊施設です。基本的な電化製品・台所用品・寝具・他のご用意があります。
 ● 1,000円/1泊(宿泊人数は何人でもOK)でご利用できます。
 ● セルフサービス(清掃、ゴミの始末、その他)です。
 ボランティアの方達によって維持管理して頂いております。ご協力。

ご利用の流れ



* (注)要/事前登録/ご希望の方は主治医にご相談下さい。

篤志家のご協力の下に鹿児島市鴨池2丁目(鴨池電停から徒歩1分)にあるビルの部屋(1K、1DK)をご提供頂き、平成19年7月からNPO法人子ども医療ネットワーク運営の鹿児島ファミリーハウスが誕生しました。

お問い合わせ/子ども医療ネットワーク事務局 TEL 099-275-5354

お問い合わせ先

認定NPO法人子ども医療ネットワーク本部

〒890-8520 鹿児島県鹿児島市桜ヶ丘8-35-1
 鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 小児診療センター小児科内
 電話：099-275-5354

認定NPO法人子ども医療ネットワーク事務局

電話：099-275-5354 / FAX:099-265-7196

活動について・お約束

活動鹿児島やへき地など、小児医療の専門医が少ない地域に住んでいる子どもさんが、長期間の入院が必要な病気にかかった時に、ご家族を含めて安心して闘病できるように支援する事を目的に設立されました。又、難病等にかかり遠方から来院なさるおこさんとそのご家族にも広く門戸を開き、病気に対する不安や疑問を軽減し、外泊あるいは通院にかかる負担を軽減する為の事業を行います。すべてが皆様の共感とご協力のもとに運営されています。

お約束皆様からお預かりした個人情報
 ・会員のご案内の発送以外の目的で使用する事はありません。
 ・ご本人の同意なく第三者に開示・提供する事はありません。

会員の方々と事務局を結ぶ.....

こねっと通信

2016.spring VOL.17



- ファミリーハウス
- 健康相談会
- 子ども救急箱
- その他

Save the Children
 私達は離島・へき地の
 難病児を支援します



すべての子どもに適切な小児医療と
 快適な闘病生活を



認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)
 子ども医療ネットワーク

理事長通信

● 昨年は認定資格の更新ができました。小さいながらも活動を継続できているのは皆様のご協力のおかげです。心より感謝申し上げます。

● 4月中旬に発生した熊本大地震によって、多くの方が犠牲になられました。関係の皆様には衷心よりお見舞い申し上げます。地震の影響で熊本市市民病院の病棟が閉鎖されました。小児領域では先天性心疾患の手術ができる施設として有名で、以前は鹿児島県の手術も達もたくさん手術をしていただきました。現在は鹿児島大学病院ですべての心臓手術ができるようになっておりますので、今回は熊本市市民病院にいた手術直後の患者さんが鹿児島大学病院に搬送されました。たくさんのお嬢さんや新生児も熊本から鹿児島市立病院にDリ入りで搬送されております。

● 診療の都合で熊本県から鹿児島市にいられた方にファミリーハウスを優先的に使用していただく特別措置を取りました。これに伴い、通常の定期受診で利用されていた登録者さんが使えなくなること懸念されておりましたところ、お子さんが大病院に入院経験がある竹山様からありがたい提案をいただきました。経営されているホテルで一時的にファミリーハウスと同様の機能を分担していただけることになっております。

● このように皆様のご支援で本法人が運営できていること、厚く御礼申し上げます。

● こども健康相談会 in 奄美市 報告書 ●

● 平成28年2月13日(土) 場所：奄美市Aiiひろば

● 数年ぶりの奄美市での開催で、2012年にオープンしたばかりのまだ新しくきれいな市民の施設「Aiiひろば」が会場となりました。当日は雨風強い悪天候でしたが、そんな中でも大人10名、子供3名が参加して下さいました。

● 奄美市の乳幼児健診の受診した保護者に事前にアンケートを数十名から頂き、中でも保護者が興味のある分野の一つに「こどもの発達」がありました。近年、少年期にメディアのトラブルからのいじめや自殺、不登校やその他精神的な問題が日々絶えない時代になってきております。今回は、発達に関する小児保健領域からの話題として「メディアとの関わり」というテーマで講演会を開催することにいたしました。講師には福岡を中心に多数の講演会でご活躍されております、こどもメディア公式インスタグラマーの黒田可奈子先生を迎え、お話ししていただきました。

「こどもの生活とメディア」豊かな子ども期を過ごすために大人が出来ること

● 講演は、現代の幼児・児童の遊び方の変化の話題から始まりました。身体を動かして遊ぶことが少なくなってきた。家庭にあるゲーム機はパソコンやスマホを含めると多々一家庭10台は当たり前。友達と遊びときもゲームばかりしているため「だるい」「面倒くさい」などの言葉が実際増えている。このような現状があります。

● また、スマホからダウンロード可能な赤ちゃんを寝かせるアプリしつけのための鬼のアプリが大きな画面に流れました。しつけアプリはこどもにとってはとても萎縮してしまう内容であること初めはアプリを流すことと言いつつ聞くが、だんだん大きくなってくると言いつつ聞くようになってくるようにです。

● スマホを常に持っている親の行動に関しては、親との関わりが少ないうちで自尊心の少ないこどもが増えていきます。人にとって大切なことは自尊心を育てることであり、それには親子の関わりが大切であることを強調してあります。こどもと遊べる手段や道具はいくらでもあるので、メディアはその大切な時間を奪っている。学童、学生の自殺者やうつ病が増えていることにも関連があることであると思われました。ただ、SNSや電話は便利ツールなためどうしても日常で使用しなければいけないことも多いのですが、しかしその時こどもは大人の行動をしっかりと見ています。だから、電話を取るときはこどもに「お仕事の電話だからね」などと必ず断ってから取るなどの姿勢が重要であると話されました。

● メディアとの付き合い方で気を付ける点は「4歳までは「時間を決める」「決められたことに関して本人自身も意思をもつようにする」、4〜5歳までは「子ども自身に約束事を決めさせる」「こども自身に画面を消させる」など対処法を丁寧に説明して下さいました。

● こどもとの関わりの中では、メディアを利用しない時間を多くとって、想像力を高める遊びをしていくことは当然大事であると思えます。私自身の講演会で話を聞く前も、小児期のメディアやインターネットなどが精神面に悪いと認識はしていましたが、しかし、現代の生活においてメディアなしで生活することが難しくなっている時代であることも事実です。ではどうすればよいのか、というところに関しての助言は大変勉強になりました。もっと多くの人に聴かせることが出来たらより良いだろうと思われるくらいの充実した内容でも自身が主導となって利用する。メディアを利用するにしてもこども自身と上手に付き合えることを理解しました。

● 講演の後の医療相談会では、腰仙部のへこみ、皮膚のトラブルに関しての相談などがあり、医師が相談に応じた後は保護者も安心された様子でした。

● 当日会場でご協力頂きましたアンケートでは「親向けの勉強会をまたして欲しい」「次回聞いてみたい内容に関しては「こどもの薬に関すること」「偏食のこと」などが挙げられていました。アンケートにご協力頂きました方々に感謝いたします。

● 最後に、講演に快く応じて下さいました講師の黒田可奈子先生、会の開催にご協力頂きました奄美市健康増進課の皆様へ深く感謝申し上げます。

(県立大島病院 小児科 川村 順平)



こども救急箱

《歯ブラシの選び方》 —成長に応じて交換を—

こども医療ネットワーク会員
村上 大輔
(鹿児島大学病院小児歯科)

2016年4月12日
南日本新聞掲載

● 子どもの歯ブラシを、どのような基準で選んでいますか。つまり歯磨きを合っている歯ブラシが合っていない歯磨きが残してきてしまいませんか。口のなかを健康な状態に保つために、次の点に注意して正しく選ぶことが大切です。

● 一つ目は、毛束の部分の大きいです。口の中の動かしやすさを考え、小型がよいとされています。幼児は、保護者が歯磨きをすることが多いので、保護者が使いやすい歯ブラシを選ぶのが基本です。

● 一般に毛束の部分は奥歯の1.5本分前後(15〜17ミリメートル)で、毛は短めのもので適切です。

● 小学生は自分で歯磨きができるようになるので、本人が使いやすい歯ブラシを選びます。

● 低学年で仕上げ磨きが必要な場合、保護者も使いやすいものがよいでしょう。歯ブラシは口の成長に応じて大きくしますが、高学年でも奥歯の2本分以内(18〜20ミリメートル)で、毛の長さは8〜10ミリメートル程度のものが使えます。

● 歯磨きは、親子をつなぐ大切なコミュニケーションの場ともなります。効果的に歯磨きをして、心身を育て充実した時間にしてほしいものです。



「こねっと通信」は、会員の方々と本部・事務局を結ぶコーナーです。ご意見・ご要望をドンドンお寄せ下さい。

《宛先》

〒890-8520
鹿児島市桜ヶ丘8-35-1 鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 小児診療センター
小児科内 「こねっと通信」係
E-mail
kodonpo@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp

認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)

こども医療ネットワーク

ホームページは随時更新中です
<http://www.kufm.kagoshima-u.ac.jp/~ped/kodomoiryo/>

「こねっと通信」表面に掲載させて頂けるお子様の写真を募集しております。
上記住所にお送り頂くか、E-mail kodonpo@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp まで

※こども救急箱の記事は2006年4月から隔週に掲載されています

〒890-8520

鹿児島市桜ヶ丘8-35-1 鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 小児診療センター小児科内 「こねっと通信」係